

(2) 竹島小学校

学校長 北代 大
校内研究代表者 中平 景介

1 研究主題

「自ら学び、思いや考えを伝え合うことのできる子どもの育成」
～相手意識を持って話す・聞く活動を通して～

2 主題設定の理由

本校は、四万十川の下流に位置し、豊かな自然に恵まれるとともに、学校教育にかかわっても地域のあたたかい支援を受ける等、恵まれた環境にある。子ども達は学年を問わず仲が良く、素直で明るい。全校児童は57名で、7学級編制（特別支援学級1学級を含む）の小規模校である。

昨年度より、研究主題を『自ら学び、思いや考えを伝え合うことのできる子どもの育成～話す・聞く活動を通して～』とし、国語科を研究教科とし、授業研究を中心に研究を進めてきた。学習過程を重視した単元構想や、具体的な児童の姿をイメージした授業づくりにより、各種学力調査結果における児童の学力状況の向上等の成果の一端も現れつつある。

また、基礎基本の徹底を図る取組として、漢字・計算・音読・ノート指導等について各学級の実態や取組状況について実践交流を行い、学校全体への取組へとつなげてきた。さらに、話す・聞く力を高めるため、授業のみならず、発表朝会や委員会活動、行事等においても、子ども達が考えたことを表現する場を大切にしてきたことで、上級生を中心に理由や根拠をつけて話をしたり、人の話を受けて考えたことを話したりする児童の姿が見られるようになってきている。

しかし、言葉による見方・考え方を働かせ、相手を意識しながら話したり、聞いたりすることや、話の内容が明確になるように、自分の考えをまとめて表現することが難しい。自分の意見に自信が持てず、声の大きさや態度を含め、豊かに表現するという点においてまだまだ指導が必要な現状である。

こうした課題をふまえ、今年度は教育目標『たくましく未来を切り拓く児童の育成』のもと、確かな学力の育成に向け、研究主題を『自ら学び、思いや考えを伝え合うことのできる子どもの育成～相手意識をもって話す・聞く活動を通して～』とし、①学習意欲を喚起する場面を設定し、解決への見通しが持てるめあてへと導くこと ②言葉による見方・考え方を働かせ、相手を意識しながら話したり、聞いたりする活動を主にした授業をすること ③聞いた話の内容をもとに、一人ひとりに考えを持たせ、表現する場を設定すること 以上3点を軸に授業研究を継続し、研究テーマにアプローチしていく。さらに今年度、NIE 実践推進校への指定を受けている。新聞を活用した取組を進めることで、情報を伝え合うことや情報を収集することなどの話す・聞く活動を重視した授業づくり・授業改善を通して、児童に求められる資質・能力の育成につなげていきたい。

全教員が、目指す授業についての共有を図り、児童の学習意欲を高め、学びの価値及び児童が自身の向上を実感することのできる授業づくりを目指し研究を進めることで、児童一人一人の未来を切り拓いていく力につなげていきたい。

3 研究の進め方と方法

(1) 研究仮説

自分の思いを持ち、伝え合う活動を取り入れていく中で、自ら学び、相手意識をもって思いや考えを伝え合う子どもが育ち、物事を多角的・多面的に捉え、自分の考えを明確に持ち、豊かに表現できるようになるだろう。

(2) 研究組織

- 研修部会 学習部会（1年、3年、4年、6年、校長）
- 生活部会（2年（教頭）、5年、あおぞら、養護）

(3) 授業研究

- ・国語科の授業研究（1人年間1回）

4 今年度の取組

(1) 基礎学力をつける取組

- ・学習規律の徹底（聞き方名人の表彰） ・実践交流（ノート指導、自主学习ノートの充実）
- ・帯タイムの充実（新出漢字の指導の統一、下学年の復習の充実）
- ・自己表現できる場の設定（授業展開・生活朝会・発表朝会・行事後の感想 等）
- ・家庭学習の充実（家庭学習の手引き・学習ノートの相互交流及び評価）
- ・読書活動の充実（読書タイム・各学年の読書目標）

(2) 授業改善

- ・研究テーマ・研究仮説に基づく日々の授業実践 ・教材研究・授業研究の充実（国語科・講師招聘）
- ・授業評価表の活用（教師用も） ・防災教育の推進
- ・外国語活動（ALTの活用・コミュニケーション能力の育成）

(3) NIE 教育

- ・NIE タイム（新聞を見る・読む スクラップシートの作成） ・NIE 放送 ・全校 NIE
- ・NIE の日（家庭学習） ・NIE ルーム ・新聞記者さんの出前授業 ・新聞づくり
- ・NIE コーナー（「何が入るかな」「一面見比べコーナー」「地域の方の NIE コーナー」）

○新聞を読む習慣化

①NIE タイム

毎週木曜の朝読書の時間と帯タイムの10分間をNIE タイムとし、新聞に触れる時間を確保した。また、スクラップシートの作成にも全校で取り組んだ。

②NIE の日

毎月20日は全校統一でNIEの課題を出した。クイズコーナーを作る、家族にコメントを書いてもらう等の工夫も見られた。

③NIE 放送

毎週木曜日の朝、「読もっか」に掲載された記事の紹介をした。

また、毎日の給食時に全校児童が一人ずつ新聞記事の紹介や感想を放送で発表した。

④全校 NIE・他学年交流

全校児童が集まり、記事の紹介やクイズを行った。

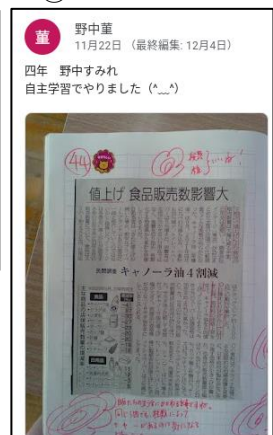
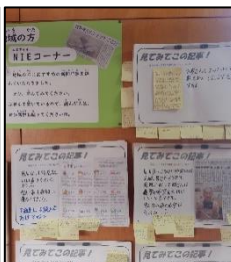
⑤朝会の先生の話

児童朝会の週番の話の中で、新聞記事を取り上げて話をした。



○環境整備

- ①NIE コーナー ②何が入るかな ③一面読み比べ ④地域の方コーナー ⑤NIE ルーム



○授業の中での活用

- ①新聞づくり
- ②教科等で

○児童の感想

- ・最初はおじいちゃんや地域の人が読むもの、漢字があつて読めないと思っていたけど、自分たちも読んでみたら面白いなという記事があつた。NIE 楽しい。（1年）
- ・NIE のことがたくさんふえて毎日新聞を読むのが楽しくなった。（4年）
- ・新聞は事件とか事故しか書いていないと思っていたけど、楽しい記事もあつて新聞はいいなと思った。（5年）
- ・記事の内容に興味をもつようになり、記事を読んだ時にすぐ自分の意見が浮かんできて他の人に言いたくなつた。（6年）

（新聞に対するイメージ）



○成果と課題

（4年生 新聞コンクール金賞受賞）

- 粘り強く記事を読めるようになった。記事を読み取る力がついた。
- 全文読めなくても見出しや写真から記事の内容を類推して諦めずに読むようになった。
- 面白い記事があることに気付き、世の中の出来事に関心をもつようになった。
- 自分の意見を持ち、意見を伝える力がついた。他者との交流の楽しさに気づいた。
- どこまでの力が付いたか明確ではない
- 個人差 → 各学年で身に付けさせたい力を明確にし、児童と共通理解を図る
- 教科の中での活用 → 教員の新聞に触れる習慣化 各学年の取組の共有・記録

（4）探究的活動に基づく総合的な学習の時間の実践

- ・ふるさとを語り、ふるさとを誇れる児童の育成

（5）道徳教育の推進

- ・道徳教育の全体計画及び特別の教科道徳の指導計画の整備並びに計画に基づく確実な実践
- ・道徳参観日の充実 ・「考え、議論する」道徳科の授業実践

（6）人権教育の推進

- ・体験学習の重視 ・講師招聘（心の教育参観日での講演会） ・「障がい」者理解教育
- ・学級集団づくり、学校集団づくり ・特別支援教育の推進 ・人権参観日
- ・校内支援委員会の充実

（7）研究授業

教科	日	学年	単元・教材名
国語科	5月17日	6年	友だちの意見を聞いて考えよう
	6月21日	2年	ことばで絵をつたえよう
	7月5日	1年	こんなことしたよ
	11月8日	5年	伝えたい、心に残る言葉
	12月6日	4年	「ふるさとの食」を伝えよう
	2月7日	3年	外国のことをしょうかいしよう

5 今年度の成果（○）と課題（●）

- 授業研では、視点を絞ったことで児童の言動を注視して授業参観でき、協議時間も短縮できた。
- 学力テスト分析結果を受け、日々の授業での改善点について研究主任から提案があり、共有できた。
- 授業計画表の活用により、児童も教師も単元でつきたい力や学習の見通しを持ち、取り組めた。
- 研究授業での課題を日々の実践でどう取り組み、どう改善していくのかという点が弱かった。
- 今後の複式化を見据えて、児童主体で学習を進めていく場をもっと設定していく必要がある。
- 学力テストで課題が見られる領域や内容について、各学年の教科書を持ち寄り、学習内容や系統性について全体で確認していく必要がある。